R５年度辻南小　学校課題研修　成果報告書

国語科 における深い学びに到達した児童像

柱①　情報の分析	柱②　考えの形成・再構築	柱③　既習・新知識の活用	柱④　課題発見
深い学びポイントとの関連			
３自力　４協働	３自力　４協働 ５練り上げ	２見通す　３自力 ４協働　５練り上げ	１つかむ　２見通す ６メタ認知
◇「読むこと」において、言葉にこだわりをもって読み、読み取ったこと（題名、人物、場面、心情）の関係性をより多く発見することができる。	◇自分と友達の意見を比較・統合しながら、自分の考えを再構築することができる。	◇「読むこと」において、文中の言葉を根拠にしたり、自身の経験とからめたりしながら考えたことを自分の言葉でまとめることができる。	◇学習の過程を振り返り、「何ができるようになったか」自覚している。

児童像の実現のために効果的だった手立て

【学びの自律化】

◇　学習計画表を活用して学習の見通しをもって活動できるようにした。

◇　学習の最後に、自分にあった方法・自分の得意なまとめ方でまとめられるようにした。

【個別最適化】

◇　オクリンク内の思考ツールを活用した考えの整理

◇　単元計画の工夫とゴールの明確化

◇　ワークシートの工夫（複数用意・実態に合わせたシート作成）

実践の成果（〇）と課題（▲）

〇　思考ツールやパワーポイントの共同編集機能などを学習内容に合わせて効果的に活用できた。

〇　人物の置かれた状況を把握するために「図読法」を取り入れた。再話させることで、児童の読みの理解が深められ、人物の置かれた状況を把握することができた。

〇　本文を穴埋め形式にしたカードをオクリンクで活用した。そのため、ほぼ全員の児童が大事な言葉を叙述に即して正確に探し出すことができた。

〇　毎時間の見通しをもたせ、振り返りまでを１時間の授業の中で行った。授業の終末には、自発的に振り返りをする姿が見られた。

〇　オクリンクのカードの色を変えて自分の考えを視覚的に整理することで、話し相手を自分で選んだり、相手に自分の意見を伝えようとしたりしていた。

○	自力で解決できなかった問題について、できた児童に助けてもらったり話し合ったりする活動により、自分たちで高め合うことができた。
○	提案文や意見文を書くときに、いくつかのモデル文を示したことで自分にあった方法で進めることができていた。
○	意見が分かれる議論の際に、色分けしたカードを用いることで積極的に話し合う姿が見られた。
▲	思考ツールの活用場面と、どのような形式のツールが適切か今後も研究が必要である。
▲	デジタル教材は必要な資料を常時提示しておけないことから、考え方の比較をすることが難しかった。
▲	学習計画表とともに振り返りをクラウド上で行うメリットもあるが、学習計画表を見ようと思わないと見ないというデメリットもある。